すこやか

情報便 第6号

「すこやか」は学校関係者の皆様に旬の話題を提供する情報紙です。

もくじ　～制度の実施から３年～　栄養教諭の配置後、行政の支援を受けて、こんな成果がありました ……1～ 6
たいせつな子ども達のために取り組んでいます！ 福岡県宗像市……6 ～ 8

OACS
Organization for Advancement of Children's Wellness through School Lunch
財団法人
学校給食研究改善協会
平成 20 年 11 月 4 日　発行
〒 160-0004　東京都新宿区四谷 3-13　三栄ビル 4 F
TEL　03-3357-6755　　FAX　03-3357-6756
http://www.gakkyu.or.jp/
上記 URL で本紙のバックナンバーもご覧になれます。

～制度の実施から３年～

「栄養教諭の配置後、行政の支援を受けて、こんな成果がありました！」

「第 49 回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会」シンポジウム「栄養教諭の配置と食育の成果」より

栄養教諭の配置がスタートしてから３年を経過した今夏、福岡県久留米市で開催された「第 49 回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会」において『栄養教諭の配置と食育の成果』をテーマに開かれたシンポジウムは、大会参加者からひときわ大きい拍手がありました。内容は、行政と栄養教諭それぞれの立場から栄養教諭の配置に至るまでと、配置後の食育推進の成果について詳しく発表が行われました。このシンポジウムについては、大会誌に資料が掲載されておらず詳しい内容を知りたいとの、大会に参加できなかった多くの方々からの要望に副って、その概略をレポートしました。

コーディネーター	文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官		田中 延子
シンポジスト	行 政	長崎県教育庁義務教育課長	江頭 明文
		福岡県宗像市教育委員会教育長	城月 カヨ子
	栄養教諭	長崎県諫早市立御館山小学校栄養教諭	真野 有里
		福岡県田川市立鎮西小学校栄養教諭	水上 みどり

「栄養教諭の配置とその食育の成果」のキーワード！

1. 行政・学校・家庭・地域社会が「食育」を推進するという明確な方針を打ち立てる。
2. 栄養教諭を配置した後も行政が継続して様々な支援をしていく。
3. 栄養教諭・学校栄養職員自身が研鑽努力して、指導力の向上を目指す。
4. 子どもへの想いをもって上記の取組がすすめば、成果が得られる。
5. 「食」が子どもの心とからだの健全な成長にたいへん重要で、影響が大きいことの認識を関係者や社会にも広める。

長崎県教育庁（行政）のとりくみ

長崎県教育庁義務教育課長　江頭 明文

行政が、配置した後もひき続き、きめこまかに支援しています

栄養教諭配置の経緯

○ 子ども達の規範意識や学力には、「食生活」が深く影響を及ぼしていることに着眼し、県教育庁で「学校における食育を推進していこう」という基本方針を決定した。その上で、栄養教諭が配置されることを想定して、栄養教諭が全校の「食育」指導にかかわるためにはどのような場合に、どのようなニーズがあるのか、**実態調査を実施し、**市町ごとに食育指導体制を整備した。

○ 平成 19 年度に 12 名を配置した後、出てきた課題を改善しながら次年度の配置につなげるという方法で、今後も計画的に毎年 20 名程度の増員を予定している。

支援の内容

○ 平成 19 年度に食育を所管する義務教育課に、平成 20 年度に給食を所管する体育保健課に、栄養教諭を「指導主事」としてそれぞれ 1 名ずつ配置した。

○ 栄養教諭を**配置した後も、県教委から各市町教育委員会、学校等を年に数回訪問しているが、食育担当の指導主事だけではなく参事等の上司や、場合によっては人事担当の管理主事や課長も同行し、訪問の意義を高めている。**その際に、実態調査した資料等により「食育」に対する意識や理解を深めてもらうとともに、**配置後の課題について、関係者と話合いながら指導し、改善に努めている。**

○ 平成 20 年度に県教委から「食育の推進について」の通知を発出するとともに、栄養教諭配置校の校長にも研修を行い、栄養教諭活用についてさらに理解を深めてもらっている。

○ 栄養教諭自身は、初任者としての校内研修、教育センターや県教委主催の校外研修を通して、資質向上を図っている。

配置の効果

○ 市町教育委員会の「食育」に対する関与が増え、ブロック別食育推進委員会の設置、全体計画や年間指導計画作成などに積極的に係わるようになった。

○ 学校における「食育」が計画的に推進されるに伴って、栄養教諭自身が自信をもって指導できるようになり、校長、教員、そして保護者の「食」に対する意識も高まり、食育に対する理解が得られるようになった。(グラフ①)

○ 周囲の意識の変化や熱意に子ども自身も反応し、「食」に関する意識や変容が見られるようになった。

○ 栄養教諭周辺の人々の意識が変化して、栄養教諭に協力・支援する環境が生まれた。

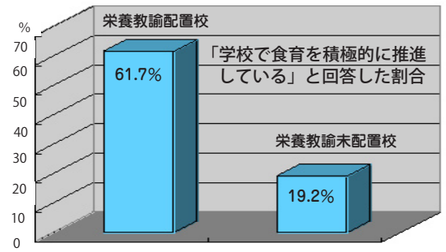
○栄養教諭周辺の人々の意識の向上や変化を受けて、配置校では未配置校に比べて明らかに、校内はもちろん、家庭・地域と連携した食育の推進が図られている。（グラフ②）

栄養教諭配置

○児童生徒の給食の残量の減少 (グラフ③)、朝食摂食率の改善、食行動の向上、肥満等の個別指導の回数が増えるなどの成果が得られた。

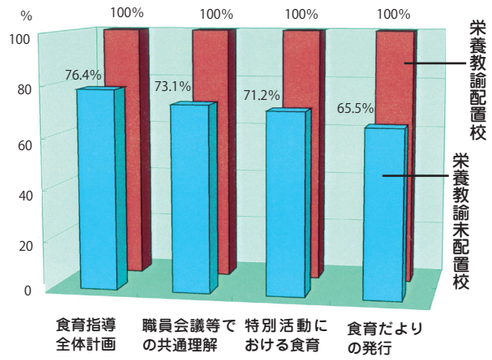
① 教職員の意識調査

栄養教諭配置校では、教職員の食育に対する意識の高まりが見られる。



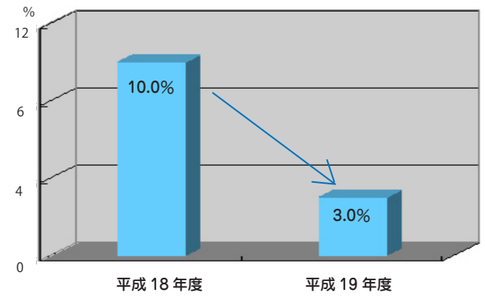
② 栄養教諭配置校と未配置校の食育推進状況

栄養教諭配置校では、未配置校に比べて、食育が推進されてきている。



③ 給食残食率の推移

栄養教諭配置校 (A 小学校) では、給食の残量が大きく減少した。



今後の課題

○ 現代の子ども達のあらゆる問題に、「食」が根源的につながっているということが、十分理解されておらず、食育推進や栄養教諭の業務に対するスムーズな理解の妨げになっている。

○ 共同調理場を担当する栄養教諭は多忙を極めており、行政支援は急務である。

○ 栄養教諭の食に対する取組に対し、配置校の校長・教職員から理解と協力が得られるよう、行政として、訪問指導や研修会を繰り返し行う。

栄養教諭に期待すること

○ 子どもの心とからだの健康、学力や生活面で最も影響のある「食」に関する指導の推進という、大変重要な役割を担っていることを、栄養教諭自身がいつも認識して自覚しなければならない。

○ 現在の栄養教諭はこれまで誰もしたことのない仕事に初めて取り組むパイオニアである。苦労もあるが、失敗に臆せず、常に積極的に自分自身も努力して力をつけてほしい。

福岡県宗像市教育委員会のとりくみ

福岡県宗像市教育委員会教育長　城月カヨ子

市をあげて子どもの健やかな成長のための『食育』を推進しています

取組の内容と経緯

○ 市として、食育推進計画に**子どもを中心に据えた目標を明記した。**

○ 平成 10 年度から市内学校給食施設を、単独調理方式への移行を開始し、平成 22 年度に全校の単独調理方式化の完了を予定している。

○ 離島 1 校を除く給食施設のある学校および共同調理場全てに栄養士を配置した。（県費負担栄養士、市費栄養士、市非常勤嘱託栄養士のいずれか）

支援の内容

○ 栄養教諭・学校栄養職員の資質向上のため、市が研修などを実施している。

○ 各学校に対して食育の推進を行うための予算を充てている。

- 栄養教諭・学校栄養職員を中心とした食育事業
- 生ごみリサイクルでの野菜づくり
- 生産者との交流
- 「お弁当の日」の実施
- 野菜の栽培体験学習

④ 学校への支援例

○ 市の広報紙やホームページで学校の取組や学校給食メニュー、食育通信を紹介して栄養教諭・学校栄養職員の活動を広報している。

○ 毎月 10 日を「学校の日」と決め、市内全小・中学校を開放し、食に関する授業公開、PTA 食育講座、料理講習会、給食メニュー紹介などを実施している。

栄養教諭配置の成果

○ 教員の感想 :「栄養教諭の配置で、専門性を活かした指導と効果的な教材でわかりやすい授業ができ、全学年を見ながら発達段階に合わせた指導ができるようになった」

○ 子どもが嫌いなものを食べようと努力するようになり、残食の量がごはん、おかず、牛乳全てにおいて減少した。

○ 職員室で「食」の話題が出るようになり、家庭でも給食の話をする子どもが増えた。

○ 食育通信を毎月楽しみにして、ファイルしている保護者もあり、家庭への啓発が進んでいる。

今後の課題

○「食育」は学校・家庭・地域が連携して継続して行なうことで成果が出る。宗像市は 0 歳から 15 歳まで一貫した育成指導を行なうため、保育所も教育委員会の所管とし、幼児期から「食」に関する意識を育むことを進めている。

長崎県諫早市長里小学校のとりくみ

諫早市立御館山小学校栄養教諭　真野　有里

食育ブロック体制で効果的に実践しています

取組の内容と経緯

○ 諫早市は平成 17 年度に文部科学省より「食育推進事業」の指定を受け、栄養教諭・学校栄養職員が在籍する学校を中心に市内全校を 9 つの食育ブロックに分け、それぞれに推進協議会 (校長・食育担当教諭・給食センター所長・栄

養教諭・学校栄養職員で構成）を設置した。

○ 所属するブロックで実態調査した結果、**「子どもの朝食に問題がある」**ことがわかったためブロックの重点目標を「朝食の指導」とし、各学校の食に関する年間指導計画目標として掲げ、給食時間、教科、個別指導、家庭・地域との連携を盛り込んだ。

○ 全体計画に基づき、小・中学校の学年ごとにテーマを作り、教職員と連携・協力しながら指導を実施した。

小 1-「食べ物の名前」（学活）
小 2-「野菜の働き」　（学活）
小 3-「おやつの食べ方」（学活）
小 4-「朝ごはんの働き」（学活）
小 5-「バランスのよい食事」（家庭科）
小 6-「正しい食事の工夫」（家庭科）
中 1-「朝ごはんの大切さについて」（学活）
中 2-「スポーツと食事について」（学活）
中 3-「幼児のおやつを作ろう」（家庭科）
「自分の健康は自分で守ろう」（学活）

取組の成果

○ 子どもの好ましい変化に、担任の教諭が「食」の指導にやりがいを感じ、自信を持つようになった。

○ ブロック毎の指導体制ができたことで、各学校全体が「食育」の重要性を共通理解し、栄養教諭がコーディネーターとしてスムーズに食育指導や連携ができた。

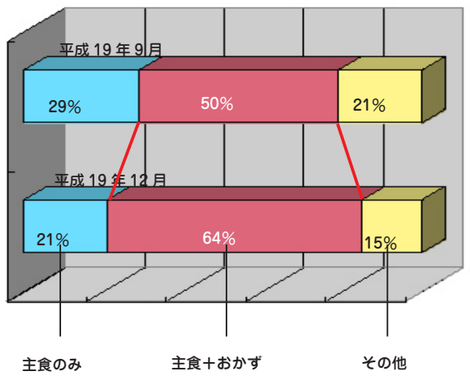
栄養教諭配置の成果

○ 小学校では、朝食の内容が改善（主食に主菜、副菜をプラス）され、給食の残食が減少し、挨拶の励行、落ち着いて話が聞ける子どもが増えた。（グラフ⑤⑥）

○ 学年が上がると朝食欠食率が高くなる傾向であったが、「朝食の重要性」の認識が深まり、欠食が改善された。

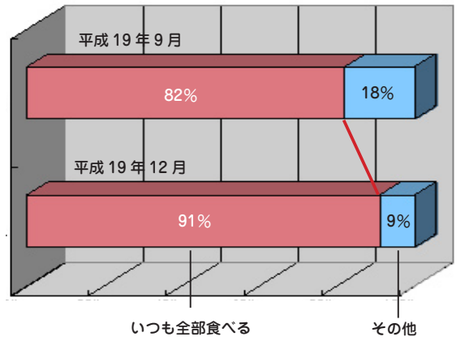
⑤ 朝食内容の改善：何を食べましたか

朝食に主食＋おかずを摂る割合が増えた。



⑥ 給食を全部食べますか

給食を全部食べる割合が増えた。



今後の課題

○ 食育ブロック体制を活用して、給食を実施していない中学校にも小学校での学習を反映させる必要がある。

栄養教諭自身の変化と今後の抱負

○ 県教委の個別訪問指導や研修、校長や多くの教職員の支援によって、栄養教諭としての自身の資質を上げることができ、自分なりに取組の方向が見えてきたことで、食育に対してより積極的になった。

・授業の後、担任教諭からアドバイスを受け、指導方法の改善に自ら努めるようになった。
・子どもを理解するために、子どもとふれあう時間を多く作り、教職員とのコミュニケーションを積極的に行なうようになった。
・子どもの実態に即した指導を心がけ、意識して教員や家庭と連携して指導を進めるようになった。

○ 行政の支援と期待に応えるために、栄養教諭自身が資質の向上や指導力アップに向けて一層の努力をしなければならないと実感している。

福岡県田川市鎮西小学校のとりくみ

田川市立鎮西小学校栄養教諭　水上　みどり

行政からの支援で関係者に理解が広まり、食育の推進ができました

取組の経緯

○ 平成 18 年度から 2 年間、福岡県学校給食研究指定を受け、生活習慣と食習慣を絡めて、自ら気付かせて、子ども自身が家庭でもできる取組の実践計画方針を校内全教職員で作成した。まず、**実態調査した結果、本校児童の特徴が判明した。**

・朝食摂食率が全国平均より低い。また教職員の意見として、明るく開放的な反面、直情的になりやすく、集中力・自主性・根気強さにやや劣る傾向があることなどが挙げられた。
・夜更かしをするため朝早く起きられず、目覚めがすっきりしない傾向がある。

○ 福岡県食育推進計画で基本指針「朝食を毎日食べる率を平成 22 年度までに 96% にする」、**県教育委員会と県 PTA 連合会の協賛「アンビシャスふくおか家庭教育宣言」でも「朝食を毎日食べる」が挙げられた。**

取組の内容

○「アンビシャスふくおか家庭教育宣言」を受け、「朝ごはんを毎日食べて登校する」、「早く寝る」ことを徹底するための週間を設け、年に 2 回実施した。

○「早寝・早起き・朝ごはん」の県民運動を受け、家庭啓発資料を配付した。

○ 2 年間の指定を受け、学校全体で栄養教諭が中核になって、「食」に関する校内研修会や研究の実践を行なった。

・教科等による食に関する指導の実施
　4 年－「よいウンチを出すには」
　5 年－家族のために「スペシャルみそ汁をつくろう」

行政による支援の内容

○ 県教育委員会が食育推進指導体制を布いたことにより、田川市がこれを受け、栄養教諭が中心となって、いろいろな実践ができ、教職員からも食に関する共通理解を得られた。

○ 田川市教育委員会が市の広報紙で福岡初の栄養教諭誕生や栄養教諭の役割などを掲載して、アピールした。

学校内における支援内容

○ 県教委から栄養教諭の職務内容の説明を受けて学校全体に理解が広がり、学校が一体となって、栄養教諭を中心に「食育」授業の推進にむけて、いろいろな協力や支援をしている。

・教職員が指導方法や発問等について栄養教諭にアドバイスする。
・栄養教諭が校外研修などで不在の時、調理員が自主的に発注業務をしたり、衛生管理を適切に対応したり、食育の授業に協力したりする。

取組の成果

○ 生き生きと取り組むようになった子ども達の様子や、嫌いだった野菜を食べるようになった姿を見て、教職員が栄養教諭に授業の協力を申し出たり、給食時間に積極的な指導を行うようになったりした。

栄養教諭配置の成果

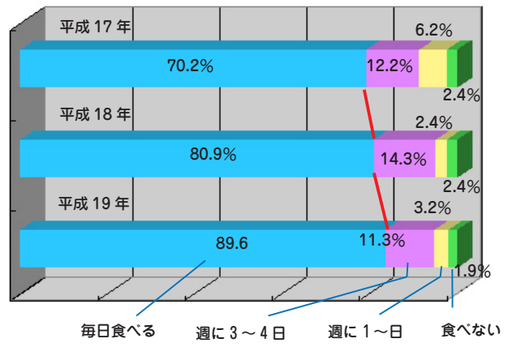
○ 子ども達には、直情的になりやすく集中力に欠ける傾向があったが、1 時間目（朝）の身体や心の状態が安定してきた。

○ 給食の残食率が 1 年間で半減した。（ごはんの残食率・平成 19 年 5.5%→平成 20 年 2.3%）

○ 子ども達が学校で習った知識や体験を家庭でもやってみようと意欲が出始めると、PTA・保護者からも協力が得られるようになり、朝食を食べる率が増えて、全国平均に近くなった。（グラフ⑦）

⑦ 朝食摂取率 3 ヵ年比較

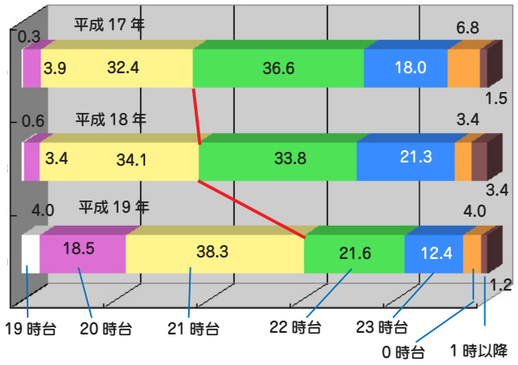
朝食を毎日食べる割合が増えた。



○ 就寝時間は、22 時台より 21 時台が多くなり、起床時間も 7 時台から 6 時台が増えるようになって、平成 17 年から 19 年までの 3 カ年で生活習慣が大きく改善された。（グラフ⑧⑨）

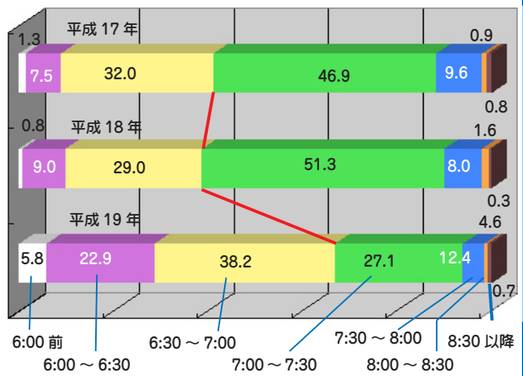
⑧就寝時間 3 ヵ年比較

21 時前に就寝する割合が増えた。



⑨ 起床時間 3 ヵ年比較

7 時前に起床する子の割合が増えた。



今後の課題

○ 田川市では小・中学校の校長、PTA、養護教諭、教職員、栄養教諭・学校栄養職員の各代表を構成メンバーとする食育プロジェクトを立ち上げたが、実際に充分機能するまでには至っていない。市から一層積極的な働きかけをいただいて、食育推進を図る必要がある。

栄養教諭としての今後の抱負

○ 家庭の状況で朝食を食べられない子どもに対する関わりの方法 (子どもへの個別の指導) などを検討していきたい。
○ 研究指定が終わった後も、生活習慣を含めた食に関する取組を学校で継続し、田川市全体に広げていきたい。

本シンポジウムは、コーディネーター・文部科学省 田中延子学校給食調査官の以下のような言葉で総括されて、拍手とため息と共に終了しました。参加者の多くは今後の取組に向けて、たくさんの貴重な情報を得て、確かな手応えを感じたようでした。

「食育」を車に例えるなら・・・

1. 食育基本法、食育推進基本計画というボディーはできました！
2. 新学習指導要領に「食育」が謳われ、学校給食法も改正されたことで、車の両輪はそろいました。
3. この車の運転手 (舵取り役) は栄養教諭です。

しかし、栄養教諭は免許を取ってから経験が浅く、時には目的地を見失ったり、でこぼこ道を走ったり、嵐に遭ったりします。そこで、目的地に無事たどり着くためには、行政や学校・家庭・地域社会の様々な支援が必要です。栄養教諭配置の成果を出すために、都道府県教育委員会や市町村教育委員会、学校等がそれぞれの立場での支援をお願いします。

たいせつな子ども達のために、市を挙げて取り組んでいます！
～宗像市「食育」３大ポイント～

前出のシンポジウムの中でも一段と反響の大きかった「全小学校を共同調理場方式から単独調理方式にし、離島１校をのぞき、栄養士を全ての学校に配置した」という画期的な取組の発表者 宗像市教育委員会城月教育長と、宗像市の栄養教諭で福岡県学校栄養士協議会支部長赤崎先生にお話をお伺いしました。

「各校に栄養士を１名ずつ配置しました」

―― シンポジウムでは、離島を除く全ての学校に栄養士を配置されたという宗像市の取組に、会場の参加者から、賞賛の拍手とため息が起こりましたね。

城月教育長　約６年前から３年間、宗像市の教育部長在任中に、現場の栄養士さんたちが取り組まれる様子を見て、その懸命に努力しておられる姿に頭が下がる思いでした。縁の下の力持ちともいえる栄養士さんの役割や存在に光を当てるために、食に関するシンポジウムを開催した時に、講師の先生からいかに「食」が大切かを教えられ、一層認識を深めていきました。そして「食」の重要性を更に痛感して、**県費負担学校栄養職員が配置されていない学校には、市費栄養士や嘱託栄養士を配置し、栄養士を全ての学校に配置していきました。**

「全小・中学校を単独調理方式にしました」

―― そのようなお考えから、全校単独調理方式に移行することを決断されたと思いますが、そのあたりの背景と経緯などをお聞かせください。

城月教育長　小学校 10 校、中学校 5 校計 15 校の給食を、宗像市学校給食共同調理場で調理していましたが、施設の老朽化にともない、新施設への改善が急務となっていました。

共同調理方式 (以後センター方式) から、単独調理方式への移行を検討した時に、一番の問題はやはりコストで、何度も試算しました。設備投資だけであれば単独調理方式の方が安いことがわかったのですが、人件費や運用費を加えると、トータルではセンター方式の方が安くなりました。

しかし、**宗像市の子ども達にとって何が大切なのか**という視点で何回も検討を重ねた結果、**やはりコストはかかるが、単独調理方式にすべきであるという結論に達しました。**単独調理方式では、調理して短時間のうちに、安全で、おいしい給食を提供できますし、地産地消も、単独の方が進めやすいのです。また、子ども達には調理員さん始め給食に関わる多くの人が苦労して作ったものをいただいているということを直に見て、そのことに感謝しながら給食を食べてほしいと思いました。

平成 22 年度には、中学校も含めて市内の学校は全て単独調理方式になる予定です。

―― すばらしいですね。

城月教育長　**当市では食物アレルギー児童・生徒に対して除去食対応を行っています。**このような配慮や対応の必要性も、認識・理解して頂きたいと思っています。

「食育は０歳から」

―― 徹底して、子ども主体で発想されているのですね。ではそんな市の基本的な「食育」の姿勢についてお聞かせください。

城月教育長　教育には市を挙げて力を入れております。特に**「食」は生きる力を身につけるためにもっとも大切な基本ですから、教育施策方針に、はっきり「食育」を謳っています。**

また、当市は今年度から保育所業務も教育委員会に移管して、**「0 歳児から 15 歳までを一貫して育てましょう」という方針を立てて、子どもの教育の一元化を図っています。**これは、私が以前、現場に度々出向いて、幼い時の食生活、食習慣がいかに大切かを学んだことが背景にあります。「食」の意識は義務教育からでは遅く、幼児期から植え付けることが非常に大切というこのような発想から、**就学前の乳児・児童も対象の「宗像発達支援センター」を建設中で、平成 21 年 4 月オープン予定です。**

―― リーダーが現場の状況を認識しておられるということは、たいへん大事なことですね。

城月教育長　市では「宗像市教育 21 世紀プラン」をもとに、学校教育の重点目標として、栄養士さんたちと協力して食育を盛り込み、システム化して取り組んでいます。もちろん、広報紙やホームページでも PR しています。

行政は、「子ども達をどのように育てていきたいか」という明確な使命感と方針をもって、取り組むことが必要です。これをしっかり踏まえれば、関係者の取組はたいへんスムーズに進み、成果へとつながります。

――「食育」に関しても、教育長は非常に大局的な視点に立った取組を考えておられますね。

城月教育長　以前、教育部長在任中は、現場の課題や優先順位が何かなど、いつも考えながら取り組ませていただきましたが、やはり「食育」は学校の中だけではできません。学校での教育は、「食育」に限らず、地域や家庭とどうつながっていくのかを考えながら実施することが大切だと思います。幼稚園・保育園の先生にも、保護者に対して家庭での役割をよく伝えていただくよう、いつもお願いしていますし、市の広報紙『むなかたタウンプレス』※でも力を入れて発信しています。

▼行政による支援の一例※
宗像市発行の広報紙。学校給食課による学校給食の紹介や食育の記事が掲載されている。

1) 行政 平成20年7月15日 むなかたタウンプレス No.128

広報むなかた
むなかた タウンプレス

宗像市公式ホームページアドレス http://www.city.munakata.lg.jp/
メールアドレス koho@city.munakata.fukuoka.jp

発行：宗像市 〒811-3492 福岡県宗像市東郷 1-1-1
代表：総務課 ☎0940-36-1121 FAX 0940-37-1242
編集：情報政策課広報係
☎0940-36-1055 FAX 0940-34-2002

毎月1日・15日発行 平成20年7月15日号

今月の紙面から

学校給食見学記、「健康むなかた21」 2・3
買った品物は即日配達、「道の駅むなかた通信」 4
相談総額8億2,156万8千円、「転ばぬ先の杖」 7
8月からの窓口負担割合を判定、長寿医療（後期高齢者医療）制度 5
子ども政策の取り組みを報告 6
生ごみの水を絞っておいしさの度を減らそう 10
見ている海の健康状態に注意！インフルエンザの予防対策を 12
子どものメタボも要注意!?、「元気のツボ」 13
地域と協力して子育てを、「協働のまちづくり」 16

1・2	3	4・5	6・7・15	8	9・10	11	12・13・14	15
行政	特集	お知らせ	学びの里	カレンダー	見て共同体	環境	市民協働

夏休みの食事のポイント
「食で元気！夏休み」

しっかり食べて、夏を乗り切ろう
もうすぐ、子どもたちがお待ちにしている夏休み。旅行や体験活動などいろいろなことを計画しているでしょう。その反面、起きる時間や食事の時間などの生活リズムが乱れがちに。暑い夏を乗り切るために、規則正しい食生活を心がけましょう。
■問い合わせ先　学校給食課☎(32)4111
「人に「良い」と書いて「食」」

しょく じは1日3回、時間を決めて
乱れがちな生活も、決まった時間に食事をとることで生活リズムを整えましょう。ゆっくりよくかみながら食べましょう。

な んでも食べて元気にすごそう
バランスの良い食事は質バランスにピッタリ。元気に夏を乗り切ってしっかりと食べましょう。

て つだおう 食事の準備
せっかくの夏休み。無理のお手伝いよりも一緒に楽しめる工夫を。家族で楽しくクッキングをスペシャルに。

け んこうに気をつけて 野菜を食べよう
夏野菜には美八千を含めビタミン類がたっぷりトマトやたくさんあるキュウリがおすすめしましょう。

つ めたいものは気をつけて
暑いからといって冷たいものを飲みすぎると、お腹をこわしやすくなります。ジュースは冷凍はさけて。

き ちんとした協働摂食 食事のモデル
暑さに負けて、「お腹は空っていませんが」なんていませんか？ 給食メニューに挑戦してみましょう。カルシウムたっぷりの牛乳も忘れずに。

や たらとおやつは食べない
おやつの食べすぎは、食事が食べられなくなる大きな原因。少しにしましょう。

す き嫌いをなくそう
好き嫌いのある人は、夏休みの間に一つでも嫌いなものを食べるよう工夫してみましょう。

み んなそろって食事をしよう
食事は医療の大事なコミュニケーションの場。1日1回は、家族で食事がそろって食べる。会話、楽しく食べましょう。

たにい ブログ・フォト日記
毎月広報紙15日号で、市ホームページ（http://www.city.munakata.lg.jp/）に掲載している市長ブログを紹介しています。
■問い合わせ先　秘書課☎(36)0890

6月8日、「むなかた協働大学」の入学式が開かれ、学長として祝辞を述べました。（詳細記事4ページ）。
この大学は、地域の担い手となる人材育成を目的に、福岡教育大学、日本赤十字九州国際看護大学、東海大学福岡短期大学と市が、技術や知的財産を結集して設立しました。修了者には、地域活動に共同でビジネス協働化の提案など、多方面で市のまちづくりに貢献、参加をしてもらいたいと考えています。
入学式では、たみなさんは、まちづくりに熱意を持った人ばかりで、市と協働で「宗像づくり」に取り組んでいけると確信しています。
2年間という長い期間学ぶことになりますが、健康に十分留意して、大学生活を大いに楽しんでもらいたいと思います。
新入生のみなさんの健闘を祈っています。頑張ってください。
入学生代表と固く握手

広報紙への意見・要望を右記に寄せてください。
発行：宗像市　住所：〒811-3492　福岡県宗像市東郷一丁目1－1
編集：情報政策課広報係　TEL：(0940)-36-1055　FAX：(0940)-34-2002
メールアドレス：koho@city.munakata.fukuoka.jp
印刷：大成印刷株式会社

「栄養士のレベルアップのために、市費による研修支援をしています」

―― 宗像市の画期的な取組として、配置される栄養士さんの研修・教育にも力を入れておられますね。

城月教育長　栄養士の資質向上は子どものためにも非常に大切です。そこで、県採用された際に受ける「新採用研修」を、**市採用の栄養士にも受けさせていただくことにしました。また、平成 20 年度より市教委主催で学校の栄養士対象に研修を行っています。**

宗像市では不登校児童生徒が少ないのですが、それは宗像市の子どもを取り巻く大人たちの愛が伝わっているからだと思います。

―― まさに「食育」の成果ですね。教育長の「子どもをすべての軸に据えて、市の将来を長期展望して取り組まれる姿勢」は必ず市の活性化につながっていくと思います。理由は、子ども達が将来を担う市民として心身ともに健康な成人に育って、市を支えていくという構図が出来つつあるからです。今後に向けての明るい展望が、われわれにも見えてきます。

本日の貴重なお話は、シンポジウムでの長崎県教育庁江頭課長のお話と共に、「食育推進」「栄養教諭配置」に関しては、いかに行政の姿勢や支援が重要であるか、もっといえば、行政の支援がなくては、成果もなかなか得られないということがよくわかりました。ありがとうございました。

宗像市「食育」3 大ポイント

1. 「食育」の対象は、0 歳から 15 歳まで、市が一貫した取組を推進
2. 平成 22 年度に市内の小・中学校の全てを単独調理方式化、離島 1 校以外全校に栄養士配置
3. 市教委主催で栄養士の資質向上のための研修を実施

宗像市の栄養教諭、赤崎尚子先生に伺いました

(社) 全国学校栄養士協議会福岡県支部長
宗像市立河東小学校　赤崎尚子栄養教諭

宗像市の「食育」に対する姿勢をよく表している例として、市で採用された栄養士全員に、県採用栄養士と同じ研修に参加させてほしいという要望を出したら、受け入れていただきました。普段がんばっていることが認められたようで、この時は本当に嬉しかったですね。

このように**宗像市は行政が「食育」の重要性や私たちの取組みをよく理解した上で、意見を取り入れてくださるので、とてもやりがいを感じます。「だからこそ、よく自覚して期待に応える仕事をしていかなければいけない」と若い栄養士さんたちには、いつも話しています。**

単独調理方式に移行した新しい施設では、「開かれた学校」という方針で、子ども達から給食を作っている様子など調理場が見えやすいように、廊下との仕切りがガラス張りにされたり、10 年に新設された河東西小学校では、給食室が学校の中でも正面の一番目立つところに設置されています。

また**研究指定校の指定が終了したあとも、宗像市教育委員会は市費を投じて継続予算を付けてくださいました。指定が終了するとトーンダウンしがちですが、市のこのような支援のおかげで、指定校期間中の内容と変わらず充実した「食育」の取組を継続することができています。**

宗像市から他市へ異動した栄養士は、これまで当たり前と思っていた宗像市の学校給食など教育への取組がいかにレベルが高いか、外へ出て初めて、痛感しているようです。

このような市の熱心で手厚い支援を受けていることを、私達栄養士自身がよく自覚して、これからも一層努力していきたいと思っています。

入賞作品が決定しました！　～「学校給食・学校における食育に関する絵画」募集～

今夏、表記のテーマで第 3 回絵画募集の実施をしました。全国の小学生から 13,672 点の応募作品が寄せられ、審査委員会で選定の結果、文部科学大臣賞・山縣彩香さん (山口県萩市立明倫小学校 4 年)、(社) 全国学校栄養士協議会長賞・白形風花さん (愛媛県松山市立雄郡小学校 6 年)、特別審査員絹谷幸二最優秀賞・西村真由子さん (長崎県新上五島町立若松中央小学校 1 年) 他 4 名、(財) 学校給食研究改善協会理事長賞・山中芽衣さん (愛媛県八幡浜市立日土東小学校 1 年) などの作品が選ばれました。入賞者のお名前は全て当協会ホームページでご覧いただけます。入賞絵画の公開も近々、ホームページ等で行う予定です。ご期待ください。

編集後記　「次号の発行はいつですか」と関係者の皆様から何度かお問い合わせを頂戴し、この情報誌への期待が大きいことを実感しています。メインテーマの取材では福岡県久留米市、さらに宗像市へ取材に出かけました。今年は猛暑でしたが、それよりも「熱い」想いのこもった栄養教諭・栄養職員・関係者の方々の取組を伺って、学校給食がますます充実し、子どもたちの心とからだの健康に重要な役割を果たしていくことを確信しています。